

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生涯学習推進センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	2	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	121いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	岩松 昌弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	公共施設予約システムの安定した運用を図る。また、市民へ生涯学習情報を提供するため、掲示物等の工夫を継続し快適で魅力ある施設運営を行う。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	市民のニーズに対応した学習情報を提供するため、掲示物等の工夫を継続し、快適で魅力のある施設運営を行う。
②①に基づく取り組み結果	公共施設予約システムの安定した運営を図った。また、適正な施設管理を行うと共に、市民が興味を持って学習情報を収集できるよう手作りによる掲示物や装飾を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市民 関係機関職員	意図(対象をどうするのか)	活力ある生涯学習社会の実現
②事務事業の概要	生涯学習施設の供用及び生涯学習情報の提供			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	自己実現の場として、さらには社会参加への機会のある場として、利用者は増加し、学習意欲の多様化が進んでいくものと推察される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	公共施設予約システムの安定した運営が行えた。また、快適に施設利用ができるよう適正な施設管理を行うと共に、市民が興味を持って学習情報を収集できるよう手作りによる掲示物や装飾を行い、学習情報の提供を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	生涯学習推進センター利用件数	1,857	1,904	1,565	件 業務取得
	ii	インターネットアクセス件数	209,970	238,814		件 業務取得
	iii	インターネット予約件数			15,579	件 業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	35,566	32,395	金額(千円) 内容		38,098	
	国支出金(千円)		6,330 使用料及び賃借料			
	県支出金(千円)		10,422 賃金			
	市債その他(千円)		7,171 需用費			
	一般財源(千円)	35,566	32,395	6,346 委託料	39,098	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	年々市民の学習ニーズは多様化・専門化が進んでおり、学習機会の増加が求められている。学習ニーズに対応した学習情報を提供するため、ニーズの把握や提供方法に工夫が必要。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	多様な学習ニーズに対し、これまで実施している事業や現代的課題を組み合わせ、サービスの向上を図る必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H30→R1繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)			

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学習センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	121いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	岩松 昌弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民の学習ニーズ・社会的課題解決などを視野に、魅力ある事業を提供できるよう関係機関との連携を深める。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	多様化する市民の学習ニーズに対応した魅力のある事業を実施できるよう関係機関との連携を深める。併せて、学習成果の還元方法について、地域を盛り上げるよう創意工夫につとめる。
②①に基づく取組み結果	各学習センターでは、関係機関との連携や、市民との協働による事業運営を促進し、学習機会の充実・深化を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市民	意図(対象をどうするのか)	活力ある生涯学習社会の実現
②事務事業の概要	コスト削減のため、人員体制や事業の改善等を行いつつ、地域の学習拠点としての有効性を高める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	学習意欲の拡大、学習サークルへの参加によって、さらに学習センターを生涯学習の場として利用する市民が増えるものと推察される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	各学習センターでは、魅力のある事業運営を実施するため、関係機関との連携や市民との協働を促進し、専門の講師を招いた講座や研修会を行い、学習機会の充実・深化を図った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	延べ主催講座参加者数	20,288	19,175	16,883	人 業務取得
	ii	延べ施設利用者数	297,917	290,891	241,887	人 業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	89,504	89,576	金額(千円)	内容	104,928	
国支出金(千円)			89,509	市内5館の管理運営に要する経費		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	89,504	89,576				104,928

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民の学習ニーズは多様化しており、ニーズに対応した講座提供が求められるため、市民との企画事業を継続的に確保し、併せて地域で学習成果が還元できるよう創意工夫が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	地域の生涯学習の拠点として、市民ニーズにフレキシブルに対応できる講座内容の立案を行う必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越	
		H30⇒R1繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	令和2年度への繰越額(単位:千円)					

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	〇
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	谷口光儀			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	エレベーター改修工事を実施する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	適正に施設の管理運営を行い、次年度以降の改修の考え方について取りまとめを行う。
②①に基づく取組み結果	当初実施設計のとおりエレベーター改修工事を完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするのか)	適正な施設管理運営により、利用者に快適に図書館を利用してもらう。
②事務事業の概要	図書館の利用利便性の向上や、長寿命化を目的として建物、設備等の改修工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	図書館は、昭和62年4月に開館以来34年が経過し、今後老朽化した建物の外壁やトイレ等の改修工事が必要になるものと思料される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	エレベーター、非常用照明設備の改修工事を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	工事件数	1	1	2	件	業務取得
	ii	必要箇所	1	1	2	箇所	業務取得
	iii	延べ利用人数	123,135	117,509	105,501	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	6,934	20,272	金額(千円)		内容	0	
	国支出金(千円)		18,347		エレベーター改修工事		
	県支出金(千円)		1,925		非常用照明設備改修工事		
	市債その他(千円)	900					
	一般財源(千円)	6,934	19,372		20,272		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	図書館の建物、設備の経年劣化に伴う改修が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	適正に施設の管理運営を実施するため(令和元年度はエレベーター改修工事を実施)					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	エレベーター改修工事の実施	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	エレベーター、非常用照明設備の改修工事を行った。	18,502	20,427	当初	18,502	20,272	H29からの繰越
				H29⇒30繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	1,925		
		令和元年度への繰越額(単位:千円) 0					

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館蔵書・資料整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	谷口 光儀			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	朗読会や、赤ちゃん登録等を実施し図書館利用の周知や促進を図る。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	学校の各種事業(修学旅行、林間学校等)に対応した資料の収集を行うとともに、学校図書配達事業を活用し学校が必要としている資料の傾向を把握した上で、資料収集に反映させる。
②①に基づく取り組み結果	ブックスタート等を活用し赤ちゃん登録を周知するとともに、過年度の認知症予防講座を踏まえ音読会を実施し、図書館利用を促進した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするのか)	利用者の多様なニーズに応えるため、図書館資料の質的向上を図る。
②事務事業の概要	多様化・高度化する学習欲求に対応するため、図書館資料・蔵書の充実を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	昭和49年10月に条例を設置し業務を開始。その後昭和52年に市役所旧庁舎へ改修・移転し、昭和62年に現在地に図書館本館を建設した。また、利用者がより身近に利用できるよう、分館を整備した。今後も本館・分館の資料の充実を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	一般図書5,765冊、児童図書2,380冊、視聴覚資料130点を購入することにより、令和元年度末の蔵書数は、305,473冊となった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	蔵書数	301,619	303,624	305,473	冊	業務取得
	ii	図書購入数	8,140	7,849	8,132	冊	業務取得
	iii	図書貸出数	405,089	386,476	352,577	冊	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	15,000	15,499	金額(千円)		内容	15,500	
国支出金(千円)			10,173		一般図書購入:5765冊		
県支出金(千円)			4,235		児童図書購入:2380冊		
市債その他(千円)			1,091		視聴覚資料購入:130点		
一般財源(千円)	15,000	15,499				15,500	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	様々な分野において図書、視聴覚資料の充実が求められている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	利用者の多様化するニーズに対応するために各種分野に及ぶ図書、視聴覚資料の精査・検証が必要であるため				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	図書資料購入	令和元年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額	決算額				
②計画に対する事業実績	資料収集基準に基づき図書・視聴覚資料を選定・購入	15,500	15,500	当初	15,500	H29からの繰越	0	
				H29⇒30繰越	0			
③達成状況	完了			補正	0	15,499	現年分	15,499
				流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円) 0							

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	非行防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額
		一般	10	4	5	経費
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	岩松 昌弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価の掲げた内容	関係機関と連携し、街頭パトロール、子ども達や保護者からの相談受け付け、「かまがや83+運動」の推進などを重点として活動する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	関係機関と連携し、街頭パトロール、子ども達や保護者からの相談受け付け、「こども110番の家」の設置の推進などを重点として活動する。
②①に基づく取組み結果	地域での見守り活動への意識の高揚が図られた結果、「子ども安全メール」の配信件数が前年比で17件の減となった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の青少年	意図(対象をどうするのか)	①非行の早期発見、早期指導により青少年の非行を防止する。 ②速やかに情報を発信し、青少年の安全を確保する。
②事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の非行防止を図る。</li> <li>子ども達の安全確保を図るため、子ども安全メールを発信する。</li> </ul>			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、犯行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。</li> <li>子ども安全メールの発信に伴う情報提供の迅速化や、「こども110番の家」の増設の要望がある。</li> </ul>			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	各種会議及び行事において「かまがや83+運動」、「こども110番の家」についての啓発を行った。地域での見守り活動への意識の高揚が図られた結果、「子ども安全メール」の配信件数が前年比で17件の減となった。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	子ども安全メール登録者数	5,528	5,471	5,505人	業務取得
	ii	地域見守り活動従事者	1,405	1,397	1,278人	業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)	6,475	6,199	金額(千円)			9,468
	国支出金(千円)		95	センター運営協議会委員報酬		
	県支出金(千円)	3,543	541	青少年補導員報償		
	市債その他(千円)		199	センター所報「緑の子」印刷		
	一般財源(千円)	2,932	176	青少年補導員連絡協議会補助金		
				9,468		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えるものと思われる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	家庭、学校、地域又は関係機関との連携を図りながら、補導活動への協力や、子ども達の安全に関心を持ってもらうなど、地域ぐるみで子ども達を見守り、子ども達が心身ともに安全な生活を送れる環境整備を継続して実施していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越	
		H30⇒R1繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和2年度への繰越額(単位:千円)				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費	会計	款	項	目	多額経費
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	一般	10	4	1	
施策	135青少年の健全育成	担当課室	生涯学習推進課			
		担当課室長	岩松 昌弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	各団体の支援者や、行事への参加者を増加させるため、学校や保護者等に対する広報に努める。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	引き続き、各団体の支援者や、行事への参加者を増加させるため、学校や保護者等に対する広報に努める。
②①に基づく取り組み結果	イベントの参加者は、H30が前年度比23.6%減だったところ、R1については前年度比9.5%の減少だった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	青少年及び関係団体	意図(対象をどうするのか)	青少年健全育成及び団体の活性化
②事務事業の概要	青少年への自然体験・社会体験の機会提供及び地域ボランティア、関係団体の活動支援			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	家庭状況の変化等で青少年の異年齢交流、自然及び社会体験等の社会形成に必要な機会が減少し、その機会を事業として求めるニーズは年々高まっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	元気っ子ゼミナールでは、那須甲子自然の家における宿泊及び自然体験を含め、様々な活動を通じて異年齢交流や自然及び社会体験をすることができた。また、各種イベントを通じ地域の様々な世代で子ども達を見守り育てる意識づけができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	元気っ子ゼミナール参加者数	60	60	60	人	業務取得
	ii	成人の日記念行事実行委員会議数	19	12	14	回	業務取得
	iii	各団体活動数	147	122	118	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	6,033	5,681	金額(千円)	内容	10,850		
国支出金(千円)			1,012	成人式会場設営			
県支出金(千円)	235	225	265	成人式記念行事			
市債その他(千円)			2,398	青少年教育関係			
一般財源(千円)	5,798	5,456	257	土幌町交流事業	10,850		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	社会のモラルが多様化する中で、学校・家庭以外でも地域全体の教育力での青少年の育みが見直される中、地域の支援者及び子ども会等団体参加者の減少が見られる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	団体等の参加者の減少や高齢化に伴い、イベントの開催やイベント参加者の減少が見られる。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H30⇒R1繰越		
③達成状況		補正		H30からの繰越
④未完了・非着手の理由		流用・充当		現年分
		令和2年度への繰越額(単位:千円)		